

キャプテンズ・ミッション 2006年度下期 CHQ業務総括

CHQ 業務全般

- 「都道府県協会チャート」と「都道府県協会収支状況」を発行し、各都道府県協会の事業規模拡大に向けた取り組みのサポートとなる指針を展開した。また2006年度上期に行った47都道府県訪問会議での要望を精査して「JFAメンバーシップ制度基本還元金」の改定を行った。
- 川淵キャプテンとともに9地域訪問会議をキッズイベントや施設の視察と併せ実施し、各地域の現状把握と情報交換を行った。特に、2007年度事業をはじめ都道府県協会の事業規模拡大や会計(組織の整備・連結決算の推進)等についても共通した考えで進むべき方向性を確認・共有した。
- 記念事業推進委員会から引き継ぐ「サッカーを中心としたモデル的スポーツ環境整備助成」と「スポーツ組織マネジメント能力開発事業」を中心にM2の改定とM11の新設を含めた新キャプテンズ・ミッション案を作り、2007年度からの新たな展開に備えた。

M 1:「JFAメンバーシップ制度」の推進

- 2006年度におけるJFAメンバーとしては、キッズ関連事業参加者数等を含めたサッカーファミリーの人数が200万人を超える規模まで達成した。
- JFA内の各部署と連携し、全体的な業務推進体制を整備しつつも、実質的なアクションには至らなかった。
- 登録者への全体メリット/ベーシックサービスに関するコンセンサスや、カテゴリー毎の個別メリットの検討・充実、未着手のカテゴリーを含めた各カテゴリーの登録制度についてはまだ議論の段階であり、具体的なアクションを起こすには至らなかった。
- 登録意義/メリットや登録料の活用方法等の明確化や積極的なPRには至らなかったが、「JFAメンバーズサイト」を各カテゴリーに跨って横断的に整備・活用し、登録者に対する情報提供を積極的に行った。

M 2:施設の確保・活用

- 記念事業推進委員会による23ヶ所(22都道府県)の施設整備事業を引き継ぎ、都道府県フットボールセンター整備事業を制度化し(2007年度から2012年度までの6年間で総額18億円を確保)、当該事業における2007年度助成対象案件として、2件(島根/福岡)の交付決定を行った。
- 施設開放や更なる施設の確保・活用という観点については、現状の課題の把握に留まり、施設リーフレット/ガイドブックの作成には至らなかった。しかしながら、「JFAグリーンプロジェクト」の推進を決定し、今後、継続的な取り組みを行うことを決定した。

M 3:「JFAキッズプログラム」の推進

- 「モデルFA」の活動を中心に、全国で「JFAキッズプログラム」の様々な活動を強力に推進し、2007年度については47都道府県協会全てが「モデルFA制度」に取り組むこととなった。
- 各都道府県においては、将来に向けた継続的な取り組みとして、キッズを中心に様々な取り組みと連動させ、地域に根差した活動を更に定着させた。また、Jリーグアカデミー・4種関連との更なる連携に加え、他スポーツ競技団体や教育団体・自治体・省庁等にも積極的に交流を図り、協働した。
- JFAキッズサッカーフェスティバルに46都道府県157会場で延べ50,895人が参加した。親子・女子・シニア・フットサル等と連携した横断的な取り組みが増加し、フェスティバルがサッカーの導入部門の活動として定着した。

M 4:中学生年代の活性化

- 2004年度から実施した「トライアルFA制度」の対象FAの活動報告書等を中心に3年間の活動を振り返りながら、この年代における諸課題の解決・改善の具体策を抽出する様、分析を行った。
- 国体のU-16化に伴い、3種と2種との連携が図り易い環境に変化し、一貫性のある選手育成が行われる様になった。

M 5: エリート養成システムの確立

- 「リードFA」の活動を中心に、複数の都道府県にてアカデミー構想が具体化する等、具体的実施プログラム・タレント発掘 / 養成活動・指導者の養成・保護者への啓発活動等を推進した。
- JFA としてエリート選定基準等を打ち出すには至らなかったが、「エリート」の概念を広く共有し、2007 年度については 27 都道府県協会が「リードFA 制度」に取り組むこととなった。
- 取り組み意義の理解促進に向け、都道府県協会を中心に積極的に展開し、J リーグアカデミーとの連携や他スポーツ競技団体・教育団体・自治体等、広く世間にアピールを行った。

M 6: 女子サッカーの活性化 ~ 競技人口の拡大 ~

- 女子チームを紹介するサイトの設置や「トライアルFA」の活動等、諸施策を行い、2006 年度新たに 52 チームが増加した。また、女子選手数は現在約 35,000 人で登録数の女性比率は約 4.1%割合を占め、2005 年度よりも競技人口が拡大した。
- 高校女子サッカー全国高体連加盟手続きに向けた諸準備、組織体制の整備・構築を推進した。
- JFA 女子サッカーフェスティバルに 46 都道府県 154 会場で延べ 18,000 人が参加した。親子サッカーや少人数制ゲームの取り組みが増加し、フェスティバルがサッカーの導入部門の活動として定着した。
- 「トライアルFA 制度」の対象FA を中心に活動の事例を展開し、情報共有に努めた。

M 7: フットサルの普及推進

- 「トライアルFA」の活動やファミリーフットサルフェスティバルの開催を通じて、各都道府県での課題解決に向けて、様々な事例を全国に積極的に展開した。
- FIFA の登録・移籍に関する規定の検証や、登録制度の内容整理および具体的な改革案策定については、フットサル委員会が中心となって検討することとなった。
- フットサル運営者向けの「フットサル試合運営ガイドブック」を作成し、試合運営ガイドラインの明示、プレイヤーへのマナー遵守の徹底を啓発した。
- 日本体育施設協会等と協力を得ながら、施設に対してアンケート調査を実施し、フットサル体育館利用に関する実態把握した。
- JFA ファミリーフットサルフェスティバルに 47 都道府県 140 会場で延べ 15,000 人が参加した。リピーターチームの増加や、一部の地区ではファミリーフットサルリーグ新設に波及し、全国で活発な取り組みが行われた。

M 8: リーグ戦の推進と競技会の整備・充実

- 「2・3 種リーグ改革プロジェクト」を中心に、地域別ミーティングを通じて、普及・強化の両面でのリーグ戦の更なる浸透・意識向上に努めた。また、2 種年代においてはプリンスリーグに繋がる都道府県リーグ、3 種年代においては都道府県リーグに加え、隣県リーグや地域リーグを推進した。
- 都道府県協会の積極的な姿勢・協力により、望ましい形での「リーグ戦」が多く行われ、会議等を通じて好事例として紹介した。

M 9: 地域 / 都道府県協会の活性化

- 双方向のコミュニケーションを常に心がけ、各種会議 / イベント等を通じ、都道府県協会の積極的な活動をサポートした。
- 「都道府県協会チャート」や「都道府県協会収支状況」を制作・展開することによって、更なる活性化に努めた。
- CHQ タスクフォース(組織機構改革と未登録チームの登録推進)では、都道府県の活動状況・課題等の実態把握のためアンケートを実施し、現状分析を行い、都道府県協会と情報を共有した。

M10: 中長期展望に立った方針策定と提言

- 「JFA2005年宣言」について、多くの関係者と共有し、より多くのサッカーファミリーに更に浸透させた。JFAにおいては、ワールドカップの経験からの課題抽出および事務局員の意識調査結果のフィードバック等を通じて、「アクションプラン 2015」「業務プラン 2008」を推進した。また、人事研修プログラム・業務遂行管理・業務に対する価値観の策定検討等に関する具体的なアプローチとして、部長研修会・事務局運営の改善プロジェクト等に取り組み、また「業務プラン 2010」の策定にも着手した。都道府県協会に対しては、好事例を展開し、「JFA2005年宣言」や「キャプテンズ・ミッション」を踏まえた独自の目標設定や具体的アクション等(PDCA サイクル)を引き続き推進した。
- 「CHQ フューチャープロジェクト」では、地域/都道府県協会の活性化の観点から、「JFA2005年宣言」の具現化・各種支援制度の継続計画・都道府県協会の事業規模拡大・施設の確保・活用(指定管理者制度の活用)等の具体策について議論した。
- シニア年代については「トライアル FA 制度」の対象 FA を中心に、会議等を通じて情報共有を図った。

以上